令和６年度全国学力・学習状況調査ならびに

令和６年度大分県学力定着状況調査の結果と分析について

由布市教育委員会

本年度、４月１８日に実施された「令和６年度全国学力・学習状況調査」ならびに、

４月２３日に実施された「令和６年度大分県学力定着状況調査」の結果についてお知らせいたします。

１　学力調査結果の分析

（１）小学校における学力の状況

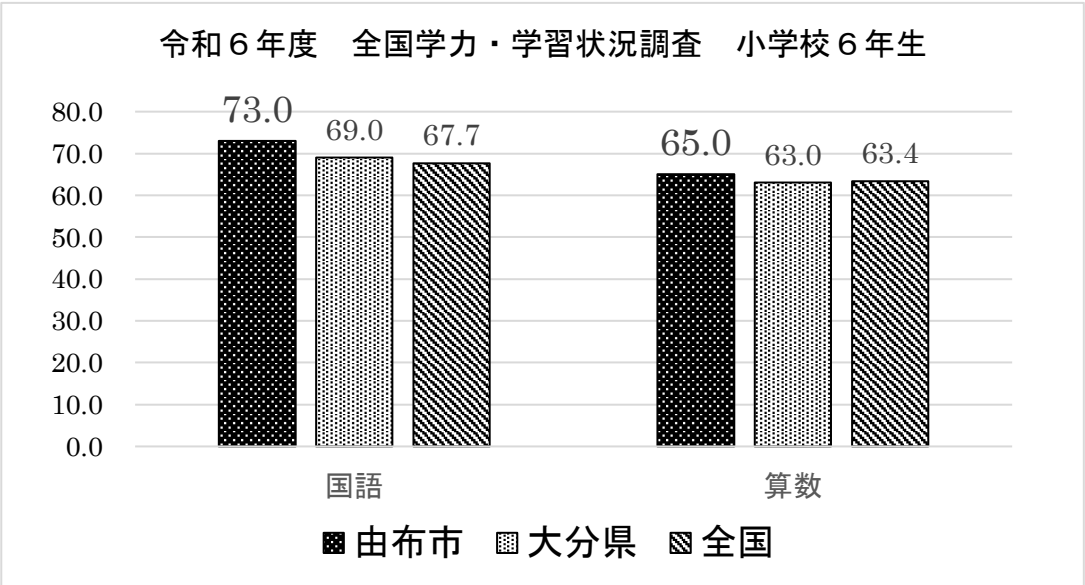
「令和６年度全国学力・学習状況調査」＜図１参照＞

小学校第６学年では、国語・算数の調査が実施されました。

○６年生では、国語、算数ともに、全国平均値および県平均値を超えました（正答率）。

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の各観点とも、全国及び県の平均を上回っています。

＜図１＞　教科別正答率「小学校６年」　　※棒グラフは左から由布市、県、全国



「令和６年度大分県学力定着状況調査」＜図２参照＞

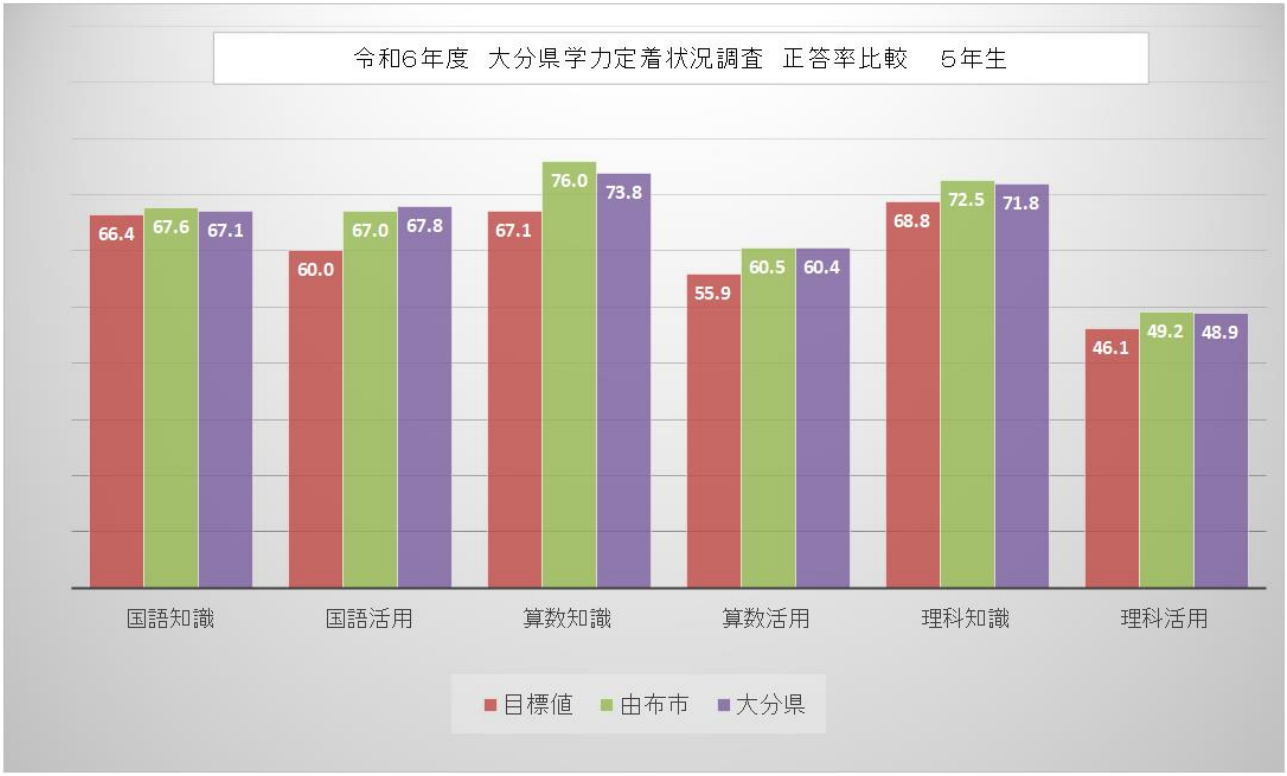
小学校では、第５学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○５年生では、国語の知識と活用、算数の知識と活用、理科の知識と活用の全ての項目において「目標値※注１」を超えました。

○また、国語の活用以外の全ての項目において、全国及び県の正答率を超えました。

※注１　学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

＜図２＞　**教科別正答率「小学校５年」**　※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「小学校における学力向上計画」

①　小学校低学年から取り組む学力向上

由布市においては、小学校１年生から将来を見据えて、子どもに「学習の理解」とともに「学習の仕方」を身につけることも目指しています。その結果、授業における話し合い活動（協働的な学習）がうまくなされるようになり、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。一方で、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）をつけることについては依然として課題があります。「積み重ねが大切」「身につけるまでには時間が必要」という性質上、学力調査の当該学年だけが対策をするのではなく、低学年時期から組織的・計画的な取組を進めています。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善（▲は全国学調、△は県学調）

＜国語＞

▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

△第４学年に配当されている漢字を正しく書いている。

＜算数＞

▲折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

△伴って変わる２つの数量の関係を式に表すことができる。

＜理科＞

△水のすがたを理解している。

＜課題解決に向けて＞ （●は全国学調、○は県学調）

＜国語＞

●目的を持って読む学習を意識させたい。そして、メモがどのような意図で整理されているか読み取る必要がある。「図書委員会の取り組みを教えてほしい」に対して、

メモは、村木さんが知りたい図書委員会の取り組みに加え、自分が伝えたいこと「アイデア給食」も書き加えている。よって、「相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にした」となる。

○漢字の習熟。

（例）学期末の総復習では、「間違いの多い漢字２０問」等に絞って取り組む。

＜算数＞

●算数の長文に対しては、情報を書き込むことが重要。具体的には、文章の内容を読みながら数値化し、図やグラフに書き込むこと。ここでは、「こうた」が１９７０年代に着目し「４回多い」と話しているので、１９７０年代の４月の７回、３月の３回を記入する。「ひなの」は「同じ」年代を話しているので、１９８０年代に「ひなの」と書き込む。すると、「しおり」の「ちがいが大きな年代がありますよね」から、３月と４月の開きが大きい２０００年代に着目することができる。問題文を読み進めると同時に、３人の話し合いを記入することにより、折れ線グラフの読み方、つまり３月と４月の回数を読み取ることができる。日々の授業において、問題文を読んだ際、図や表、グラフに明らかになっている数値を書き込んでいく活動の大切さを指導していきたい。

○はり金を折り曲げて長方形をつくるというイメージを持つ必要がある。折り曲げると、たて２本と横２本を合わせて２４ｃｍであることから、たての長さ＋横の長さ＝１２になる学習を取り入れていきたい。また、問題への対応として、提示されているたての長さ□と横の長さ△を表の左側に書き入れることも、自力で考える補助となる。

＜理科＞

○ご飯を炊くと白い気体が上がり、蓋の上側についたものが液体となる流れを復習する必要がある。同時に、日常生活において見られる「風呂の蓋」「カレーを温めたときの蓋」等を思い出させることも効果的。日々の授業においては、実験のまとめを視覚的に行うことも重要。言葉だけでまとめるのではなく、色鉛筆等で図示させ視覚的に理解させていきたい。

これらの課題解決に向けた補充学習の取組や教科担任制の取組、指導教諭・授業力向上アドバイザーといった学力向上に特化した教員からも発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

（２） 中学校における学力の状況

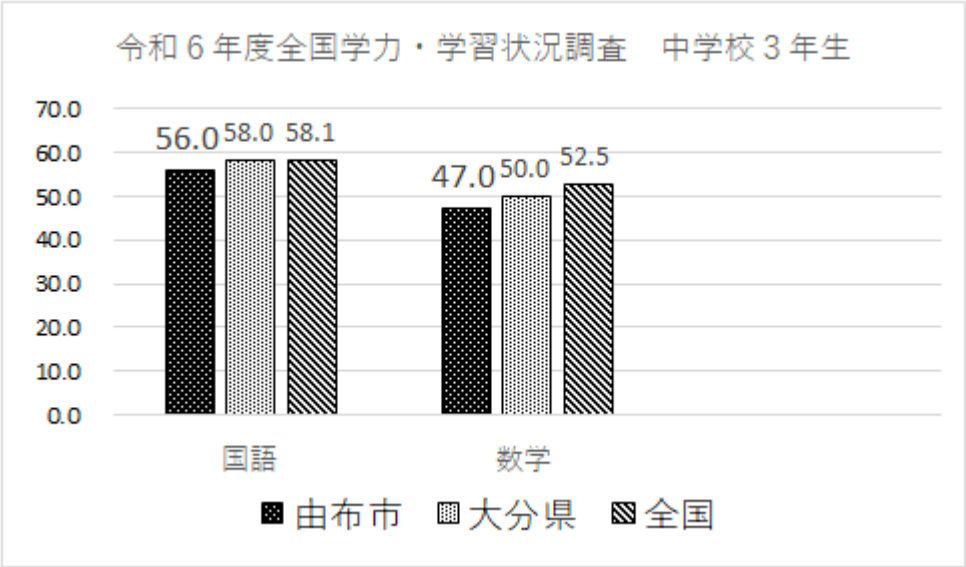
「令和６年度全国学力・学習状況調査」＜図３参照＞

第３学年で、国語・数学の調査が実施されました。

○国語・数学ともに全国の平均値及び県の平均値を下回りました。（正答率）

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の各観点とも、全国の平均値及び県の平均値を下回っています。

＜図３＞　教科別正答率「中学校３年」　※棒グラフは左から由布市、県、全国



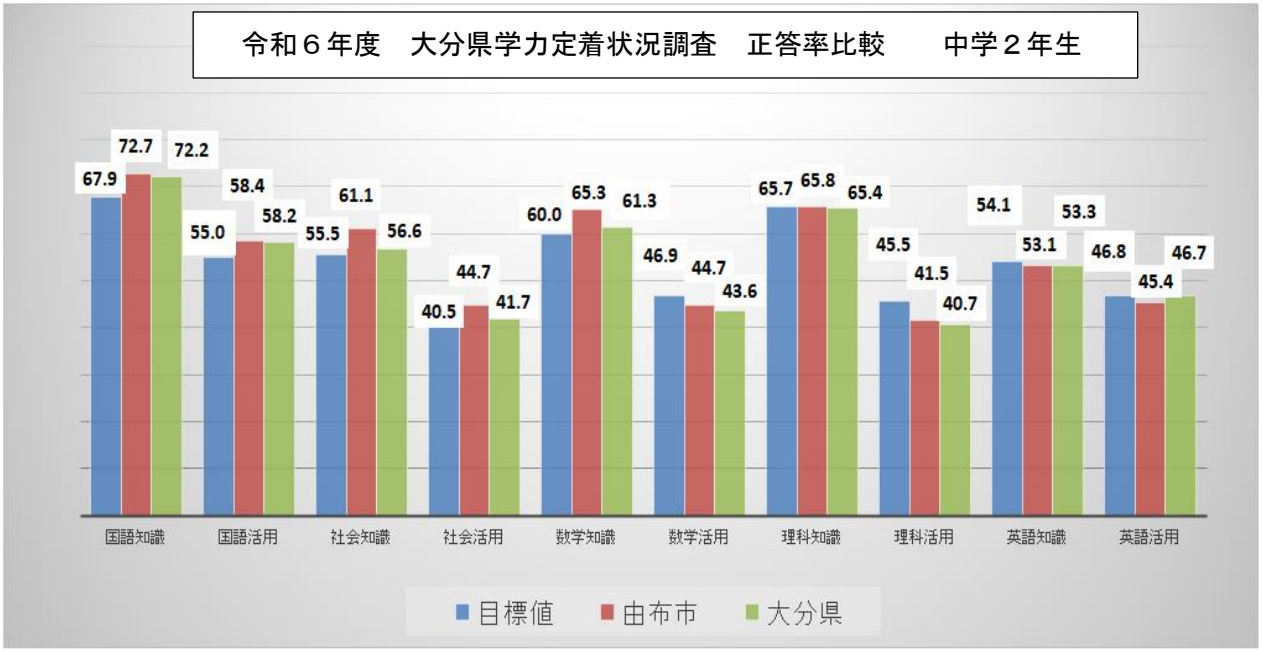
「令和６年度大分県の学力定着状況調査」＜図４参照＞

中学校では、第２学年で国語・社会・数学・理科・英語の調査が実施されました。

○２年生では、国語の知識と活用、社会の知識と活用、数学の知識、理科の知識で、「目標値※注１」を超えました。

○英語の知識と活用の正答率が県の結果を下回っているため、さらに取組を進める必要があります。

＜図４＞　**教科別正答率「中学校２年」**　※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「中学校における学力向上計画」

① 小学校から引き続く学力向上

小学校の部分でも記述したとおり、中学校においても「学習の仕方」を身につけていくことがここ数年の課題です。

授業における話し合い活動（協働的な学習）の充実は、中学校の授業でも活用されており、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。一方、小学校と同様、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）については、現状では改善できていません。このことは、小学校段階でさらに重点的に取り組む必要があるとともに、中学校においても継続して取り組んでいかなければなりません。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善（▲は全国学調、△は県学調）

＜国語＞

▲目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

△自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。

＜数学＞

▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

△与えられた文章題に対して、適切な一元一次方程式を立式することができる。

＜社会＞

△縄文時代の人々の暮らしについて、資料をもとに考察している。

＜理科＞

※全国及び県より低い項目はなし。

＜英語＞

△対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。

＜課題解決に向けて＞（●は全国学調、○は県学調）

＜国語＞

●目的に応じて必要な情報に着目して要約するために、着目する内容の言葉がある段落を読み込むことが重要。（ア）を選択した場合、８行目から１８行目までが相当することが分かる。まず、絞り込む練習が必要。授業では、「○○さんの気持ちが表れているのは、どこかな？」等、長い文章から焦点化することを全生徒が取り組むことが大切。ここでは、筆者が葉の形を表す言葉を「二次元的」か「三次元的」かという点に着目してグループ分けし、前者のグループは「多様性」、後者のグループは「普遍性」という特徴があると述べていることを取り上げればよい。

○ＣＤの聞き取りについて、話を聞く態度や集中力、メモをとる等、学習を助ける基盤となる力の重要性を理解させ、日々の取組に落とし込んでいく必要がある。少しずつでしかつかない力であることも理解させたい。次に、資料２と資料３の内容把握について。授業において、段落ごとに小見出しをつける活動を取り入れたり、要旨をまとめたりする学習は引き続き継続する必要がある。その場合、注意したいことは、自分なりに書いたことを大いに認めること。それを繰り返していくうちに、表現することに対抗を感じることが軽減されるだけでなく、重要な言葉や表現に着目するようになってくる。すると、だんだん、「書く」ことがスムーズ

になり、表現力につながっていく。始めは、口頭での回答から始めてもよい。

＜数学＞

●長文問題を見て諦めてしまう生徒が多いため、授業では長文問題でも筋道を追って考えさせ、理解できる経験とその方法を学習させる。特に、本問では、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の２倍であることを説明するためには、根拠として、計算した式２ａ＋２ｂ＋２ｃを２（ａ＋ｂ＋ｃ）と変形し、ａ＋ｂ＋ｃは○に入れた整数の和であることを記述する必要がある。その上で、成り立つ事柄として、２（ａ＋ｂ＋ｃ）は○に入れた整数の和の２倍であることを記述しなければならない。

※単元で基本的事項を学んだ後、単元末に活用問題を扱うこと。そして、学習した内容を活用すればできることを経験させたい。

①　「調べたこと」の表を読み取る。
　＜読み取れること＞　□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の２倍かなあ。
②　さらに読み進める。２０＝２×１０、１０＝２×５、６＝２×３のように、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の２倍になる」と予想できますとあるので、「調べたこと」といっしょであることが分かる。
③　最後に、説明を完成させる。
　（ａ＋ｂ）＋（ｂ＋ｃ）＋（ｃ＋ａ）をそのまま計算すれば見えてくる。
　＜正答例＞
　（ａ＋ｂ）＋（ｂ＋ｃ）＋（ｃ＋ａ）
　＝２ａ＋２ｂ＋２ｃ
　＝２（ａ＋ｂ＋ｃ）
　ａ＋ｂ＋ｃは、○に入れた整数の和だから、２（ａ＋ｂ＋ｃ）は、○に入れた整数の和の２倍である。したがって、□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の２倍である。

（思考の流れ）

○問題解決の過程を充実させる。

①求めたい数量に着目し、それを文字で表す。

②問題の中の数量やその関係から、２通りに表される数量を見いだし、文字を用いた式や数で表す。

③ それらを等号で結んで方程式をつくり、その方程式を解く。

④ 求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求める。

↓

指導の具体例

（つまずき）等しい数量の関係を見いだすことができない。または、数量の関係を文字で表すことができない。

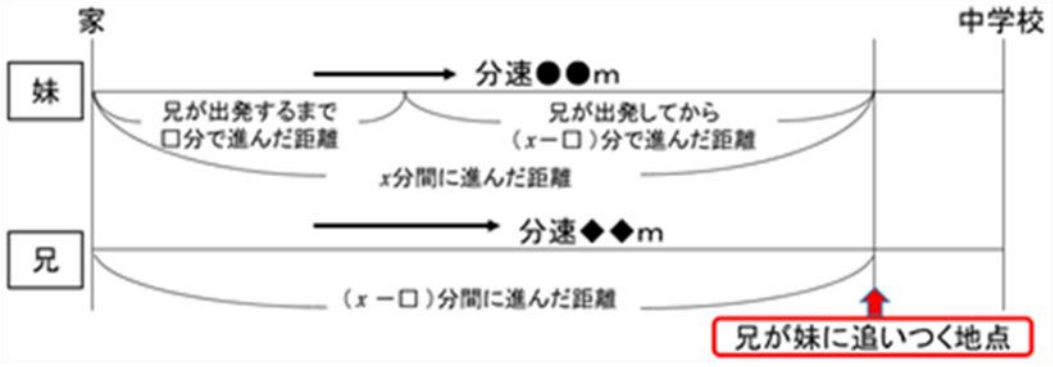
↓

（指導の工夫）　図や表に表し、問題を可視化する。

※問題文を図や表を使って考えるとわかりやすいという実感をもたせることが大切。

難しい問題になるほど、問題文を読んだだけでは、考えが深まらないため。

A　図に表し、問題を可視化する方法



B　表に表し、問題を可視化する方法

	速さ（m/分）	時間（分）	道のり（m）
妹	●●	x	●●×x
兄	◆◆	$x-\square$	◆◆×（$x-\square$）

＜ポイント＞

・（兄が妹に追いつく）→（２人の進んだ距離が等しい）

・妹が兄に追いつくまでの時間を x 分とすると、妹は先に出発しているため、兄の進んだ時間は（ x －□）分

・距離、時間、速さの公式を確認

・加法や減法が成り立つのは「距離」と「時間」

・※「速さ」は、加法や減法ができない。

＜社会＞

○何を表す地図であるか、何が分かるグラフであるか等、授業において、自力で考えさせる活動が必要。左上の「石」に関することが読み取れれば、正解は「３」。他は視点が違っている。「１は地形」「２はゴミ」「４はまじないや占い」となっている。ちなみに、「地図Ａ」は、教科書にも記載されている。

＜英語＞

○お父さんに呼びかけていること「Ｄａｄ，・・・」と「Ｃａｎ　ｙｏｕ　ｈｅｌｐ　ｍｅ　ｍｙ　ｈｏｍｅｗｏｒｋ？」と「宿題を手伝うことができますか」と質問しているので「お父さん、今、忙しいですか」や「お父さん、今、時間がありますか」等の表現が考えられる。

（例）「Ａｒｅ　Ｙｏｕ　ｂｕｓｙ　ｎｏｗ？」

「Ｄｏ　ｙｏｕ　ｈａｖｅ　ｔｉｍｅ　ｎｏｗ？」等につながる。

＊全国調査および県調査から考えられる由布市共通の取組

○学校全体で統一した取組

○授業改善の充実

○ていねいな家庭学習・補充学習

＊上記３点の取組を今後も実施するとともに、小・中学校の連携や学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組も行っていきます。

授業改善と補充学習の取組をいかに充実させていくかが重点であると捉えています。

２　意識調査結果の分析

（１）全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

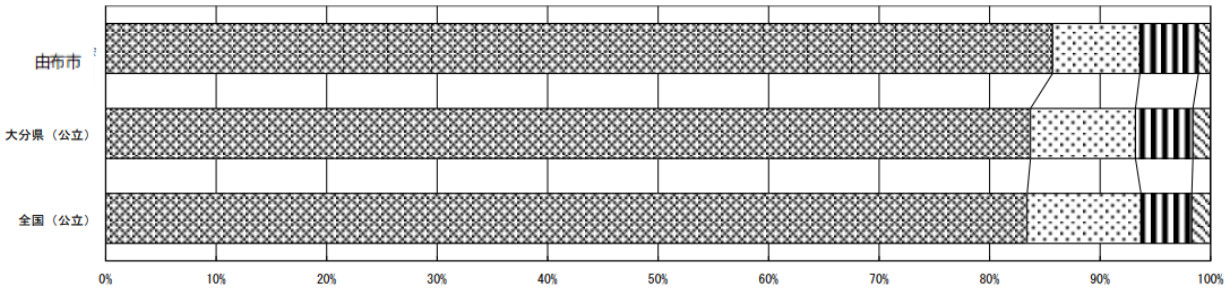
全国学力・学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも、学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。

「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」　　小学校６年

①基本的生活習慣について

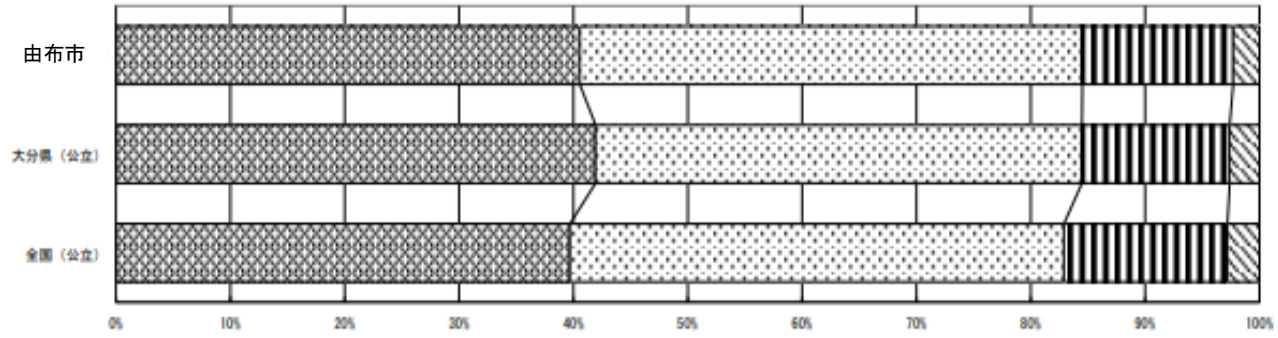
Ｑ１．朝食を食べていますか。

１．している　２．どちらかといえば、している　３あまりしていない　４全くしていない



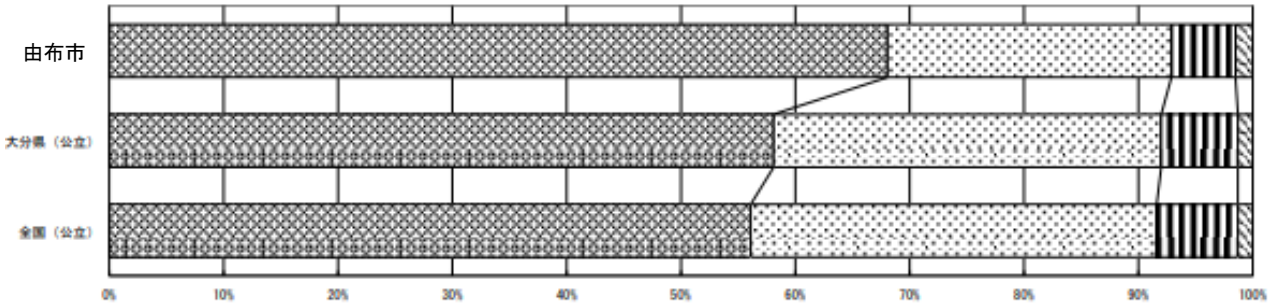
Ｑ２．毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。

１．している　２．どちらかといえば、している　３あまりしていない　４全くしていない



Ｑ３．毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

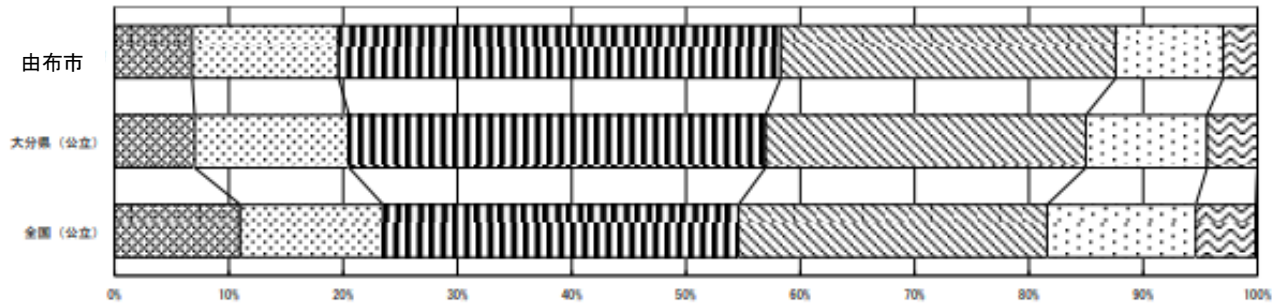
１．している　２．どちらかといえば、している　３あまりしていない　４全くしていない



②学習習慣について

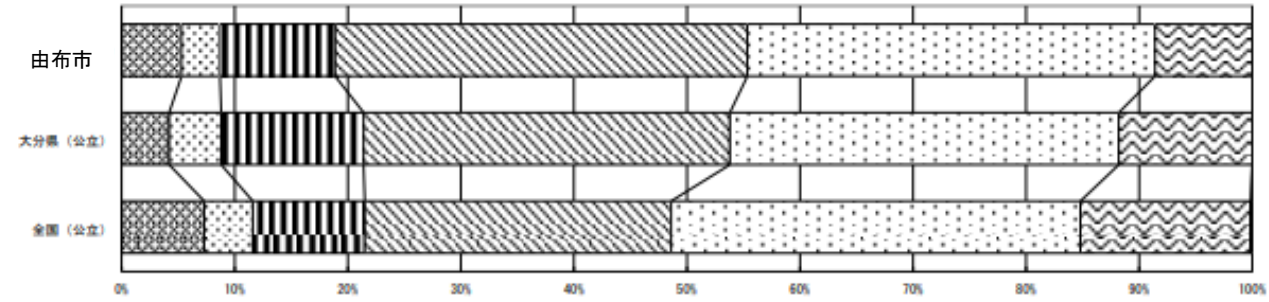
Ｑ４．学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

１．３時間以上　　２．２時間以上、３時間より少ない　３．１時間以上、２時間より少ない　４．３０分以上、１時間より少ない



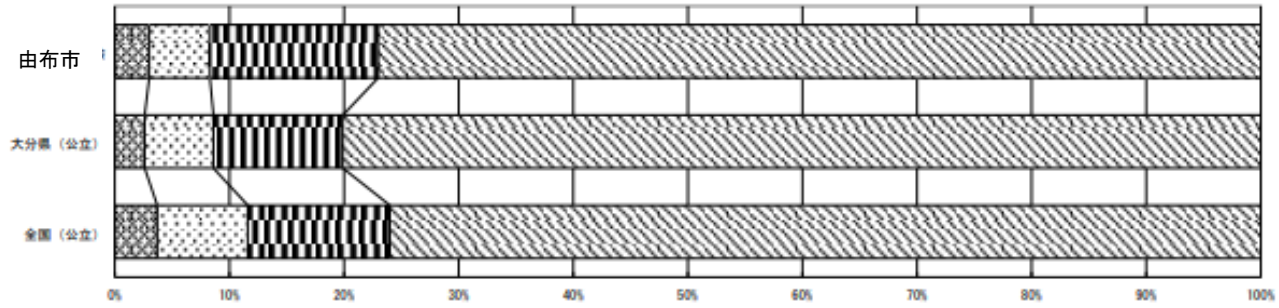
Ｑ５．土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に 教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

１． ４時間以上　　２． ３時間以上、４時間より少ない　３． ２時間以上、３時間より少ない　４． １時間以上、２時間より少ない５． １時間より少ない



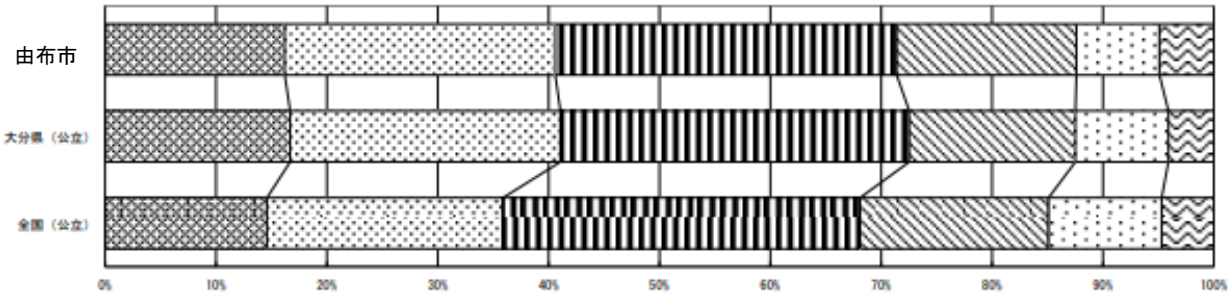
Ｑ６． 新聞を読んでいますか。

1. ほぼ毎日読んでいる　　2.週に1～3回程度読んでいる　　3.月に1～3回程度読んでいる　　4.ほとんど、または、全く読まない



Ｑ７．あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。（雑誌、新聞、教科書は除く）

1. 0 ～10 冊　2.11～25 冊　3.26～100 冊　4.101～200 冊　5．201～500 冊　6．501 冊以上　7．その他

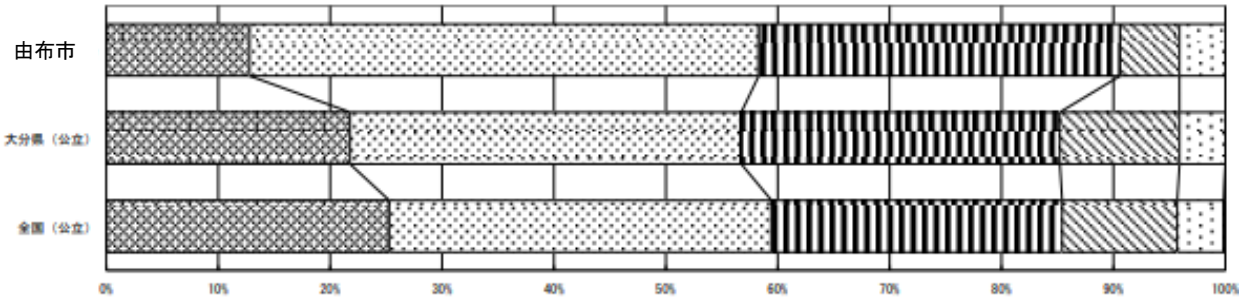


＊「定期的に新聞を読むこと」については、「読まない」児童の割合が、全国と比べて高いと言えます。読書に関する項目については、本年度の調査では、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」が入りました。全国に比べると少ないものの、県とは同程度でした。本に親しむ環境の調査と考えられますが、学校図書館や地域の図書館の利用をしている児童も多いので、自分が通う小学校だけでなく由布市図書館、そして県立図書館の利用も進めていきたいものです。並行して、授業等で図書館を活用したり、新聞を活用したりする学習を取り入れ、低学年のうちから、本に親しむ環境作りの大切さを保護者にも啓発していくことも引き続き必要と言えます。

③授業改善について

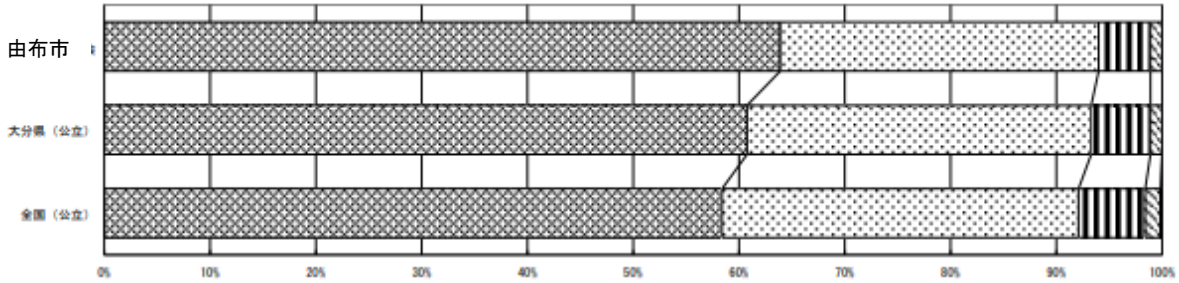
Ｑ８．５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

1.ほぼ毎日　2.週３回以上　3.週１回以上　4.月１回以上　5.月１回未満



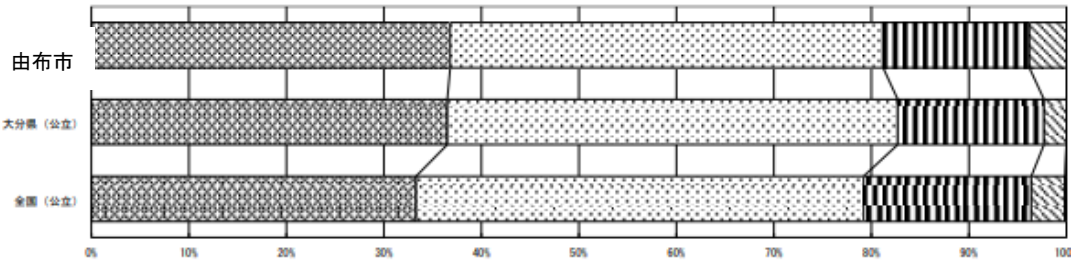
Q９．５年生までの学習の中で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（２）分からないことがあったときに、すぐ調べることができる。

1.とてもそう思う　2.そう思う　3.あまりそう思わない　4.そう思わない



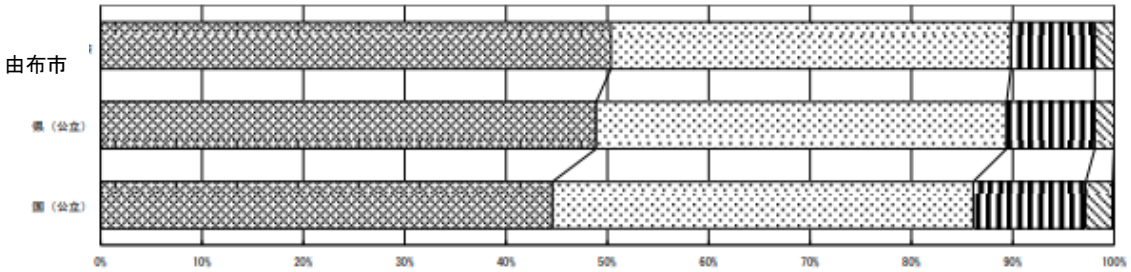
Q10．５年生までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（５）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。

1.とてもそう思う　2.そう思う　3.あまりそう思わない　4.そう思わない



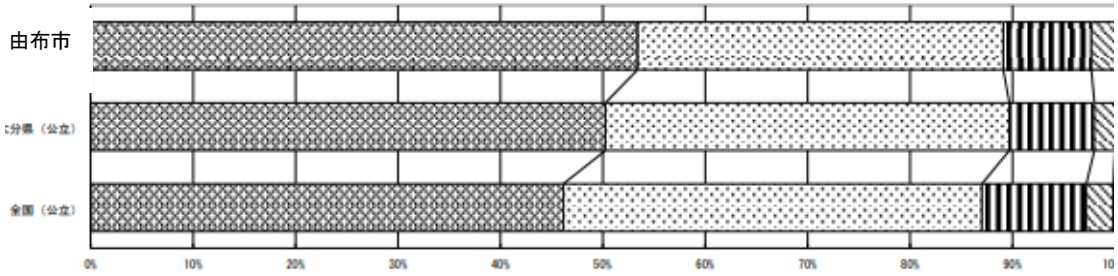
Q11．５年生までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。

1.とてもそう思う　2.そう思う　3.あまりそう思わない　4.そう思わない



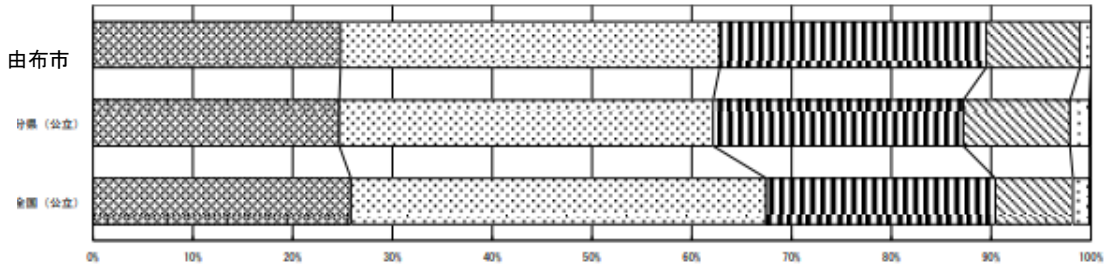
Q12.　5年生までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（７）友達と協力しながら学習を進めることができる。

1.とてもそう思う　　2.そう思う　　3.あまりそう思わない　　4.そう思わない



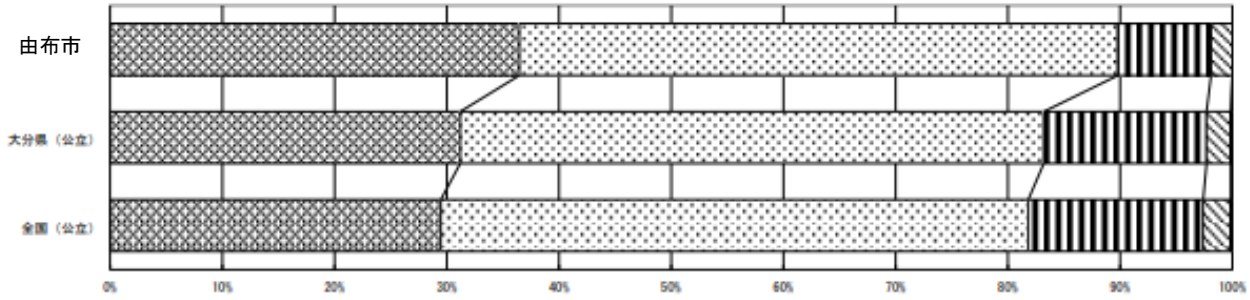
Q13.　5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

1.発表していた　　2.どちらかといえば、発表していた　　3.どちらかといえば、発表していなかった
4.発表していなかった　　5.考えを発表する機会はなかった



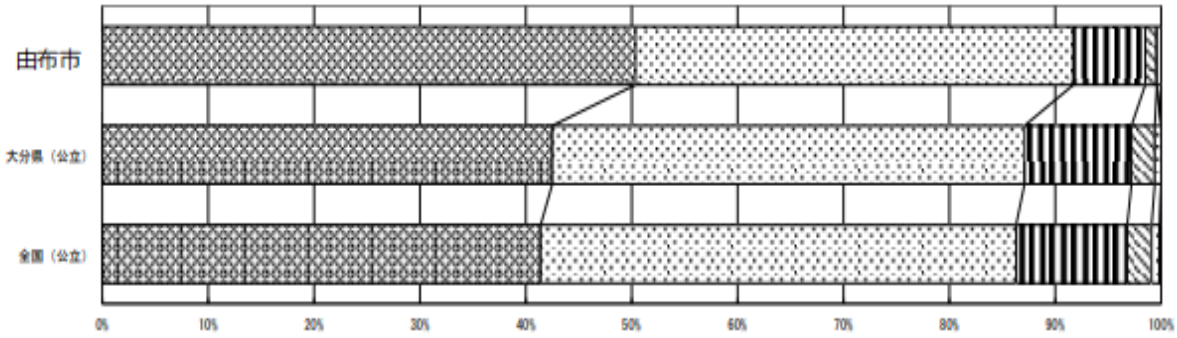
Q14.　5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか　。

1.当てはまる　　2.どちらかといえば、当てはまる　　3.どちらかといえば、当てはまらない　　4.当てはまらない



Q15. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

1.当てはまる　2.どちらかといえば、当てはまる　3.どちらかといえば、当てはまらない
4.当てはまらない　5.学級の友達との間で話し合う活動を行っていない



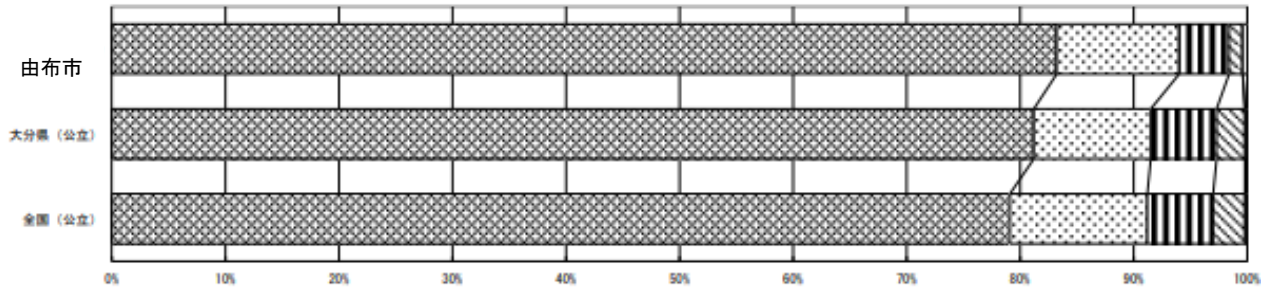
＊児童は、授業においてタブレット端末を使用しているという意識が全国や県の児童よりも高い。また、全国や県と比べると、「すぐに調べることができる」「自分の考えを分かりやすく伝えることができる」「友達の考えを共有したり比べたりしやすくなる」「友達と協力して学習を進めることができる」という実感を持って取り組むことができていると言える。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付い　たりすることができている」という意識が高い。一方、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」という意識は、全国より低いものの昨年度より高くなってきている。自分の表現を工夫する場面でタブレット端末の活用の工夫も含めた取組を継続することが必要と言える。

「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」　　中学３年生

①基本的な生活習慣について

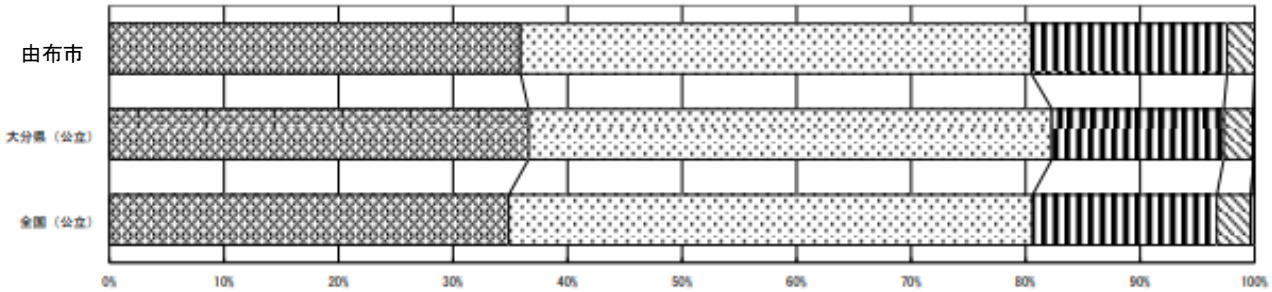
Ｑ１．朝食を毎日食べていますか。

1.している　2.どちらかといえば、している　3.あまりしていない　4.全くしていない



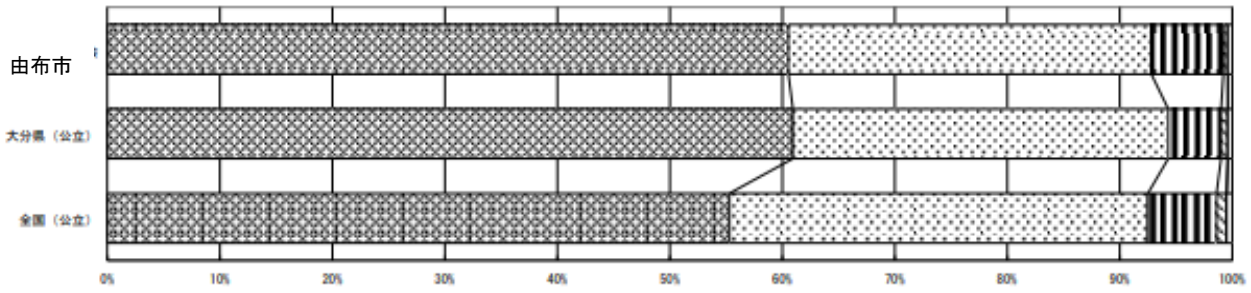
Ｑ２．毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか　。

1.している　2.どちらかといえば、している　3.あまりしていない　4.全くしていない



Ｑ３．毎日、同じくらいの時刻に起きていますか　。

1.している　　2.どちらかといえば、している　　3.あまりしていない　　4.全くしていない

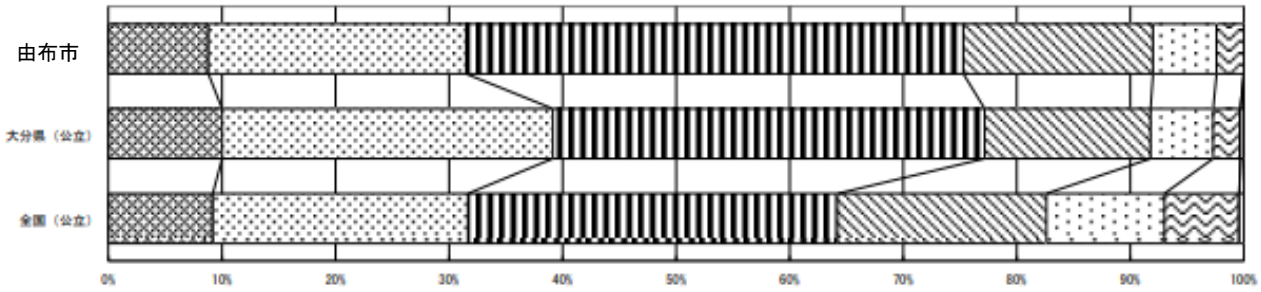


＊「朝食を毎日食べている」は、全国や県よりも高い。一方、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」は、全国とは同程度だが、県よりも低い傾向がある。この項目は、学習はもちろん、心身の成長に関わるものであるため、家庭の協力も得ながら、進めていきたいと考える。

②学習習慣について

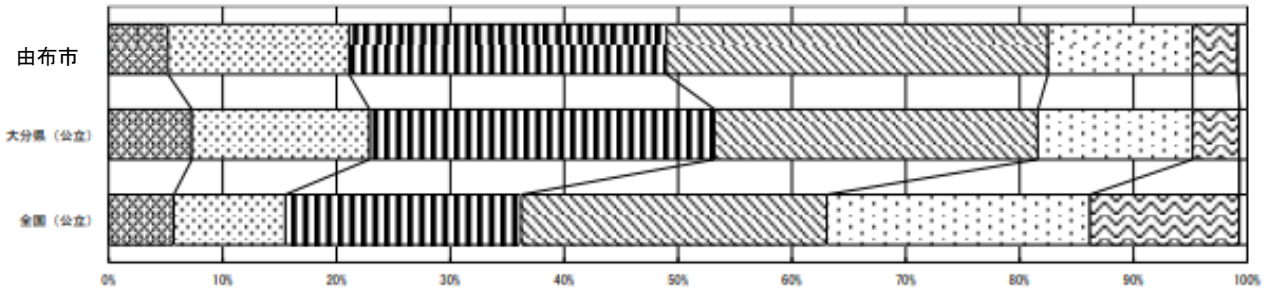
Ｑ４．学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 3 時間以上　　2. 2 時間以上、3 時間より少ない　　3. 1 時間以上、2 時間より少ない
4. 3 0 分以上、1 時間より少ない　　5. 3 0 分より少ない



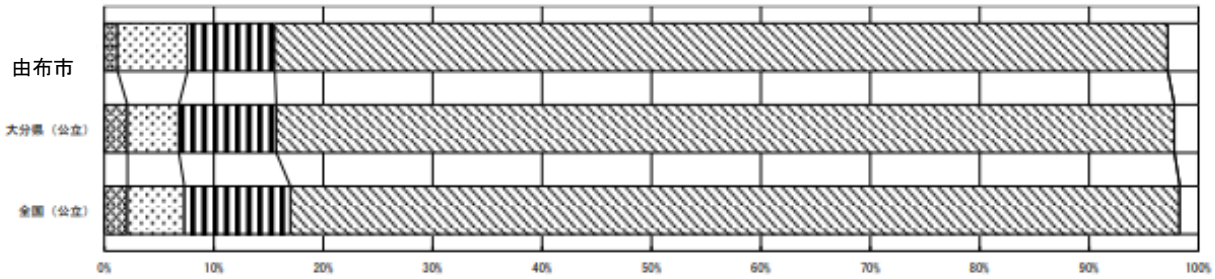
Q５．土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 4 時間以上　　2. 3 時間以上、4 時間より少ない　　3. 2 時間以上、3 時間より少ない
4. 1 時間以上、2 時間より少ない　　5. 1 時間より少ない



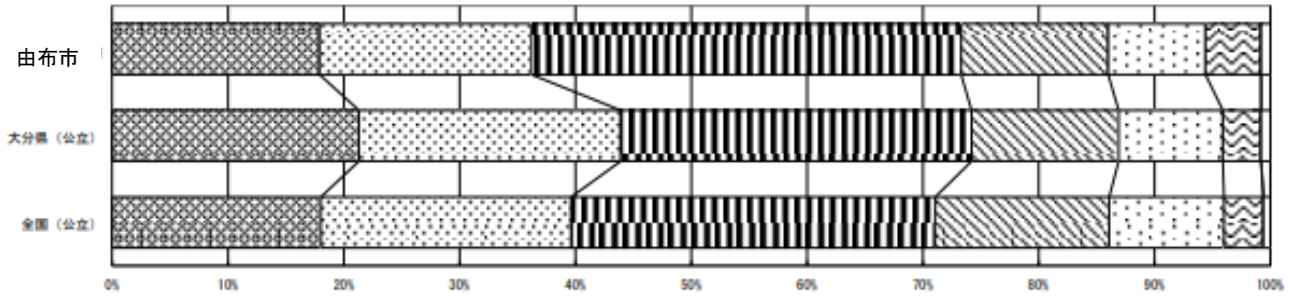
Q６．新聞を読んでいますか。

1.ほぼ毎日読んでいる　　2.週に１～３回程度読んでいる　　3.月に１～３回程度読んでいる
4.ほとんど、または、全く読まない



Q７．あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）

1.0～10 冊　　2.11～25 冊　　3.26～100 冊　　4．101～200 冊　　5．201～500 冊　　6．501 冊以上

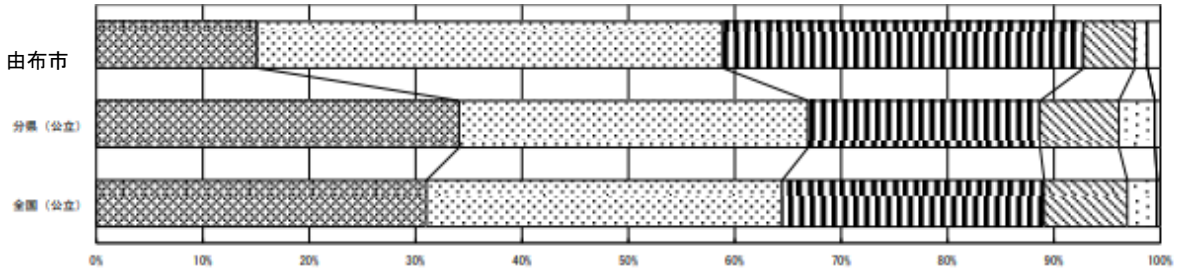


＊平日の勉強時間については、全国と同程度であるが、県より低い傾向が見られた。また、休日の勉強時間については、全国よりも高いものの県よりは低い。県に着目してみると、由布市の生徒は、全体的に、平日・休日ともに勉強時間が少ない傾向があると考える。新聞を読む生徒の割合は、県や全国と同程度。家庭にどのくらいの本があるかという項目については、全国と同程度であるが、県よりは低い。家にある本が少ないから読書量が少ないと一概には言えないが、学校図書館をはじめ、市立図書館・県立図書館の利用は推進していく必要があると言える。

③授業改善について

Ｑ８．　１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

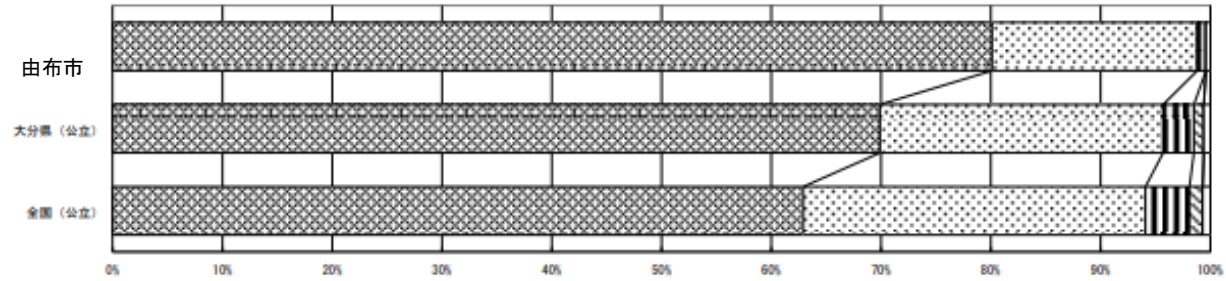
1.ほぼ毎日　　2.週３回以上　　3.週１回以上　　4.月１回以上　　5.月１回未満



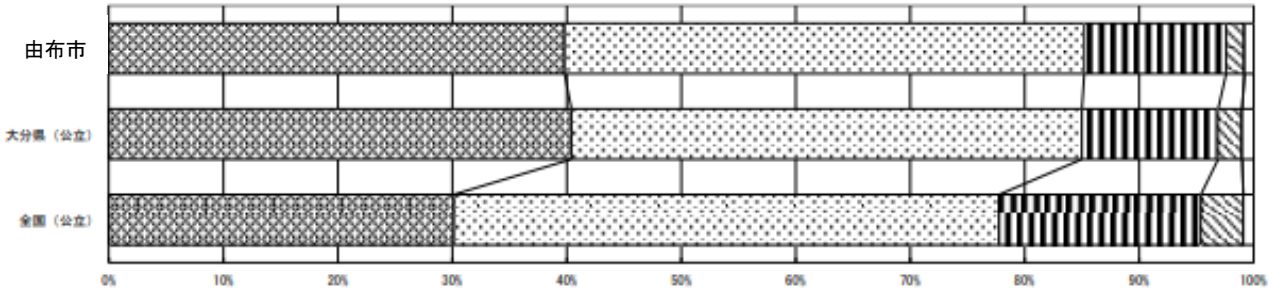
Ｑ９．　１、２年のときの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。

1.とてもそう思う　　2.そう思う　　3.あまりそう思わない

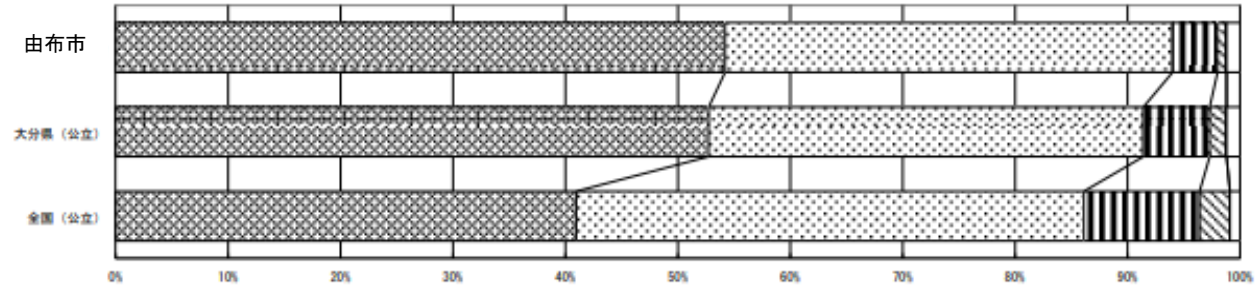
4.そう思わない



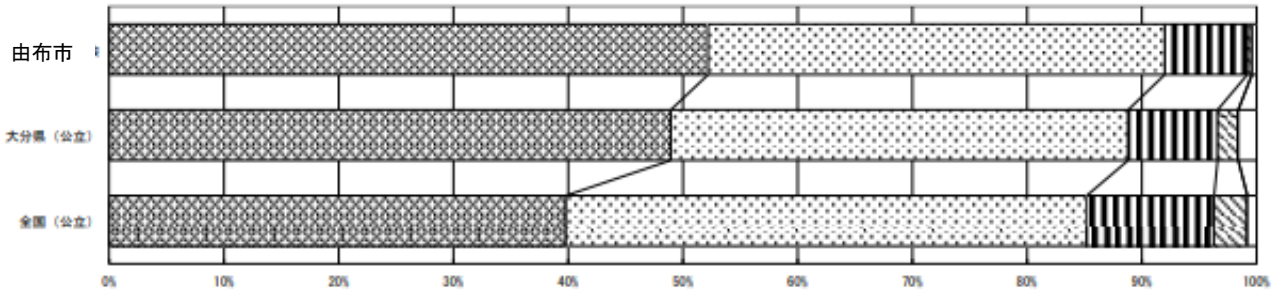
Q10.　１、２年生のときの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（５）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



Q11.　１，２年生のときの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。

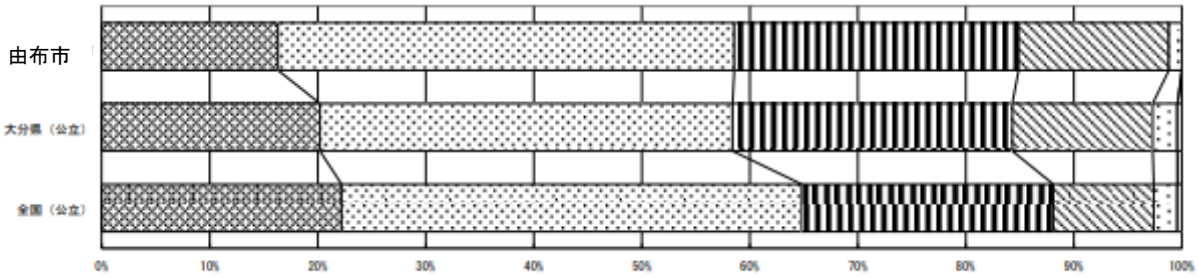


Q12.　１、２年生のときの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（７）友達と協力しながら学習を進めることができる。



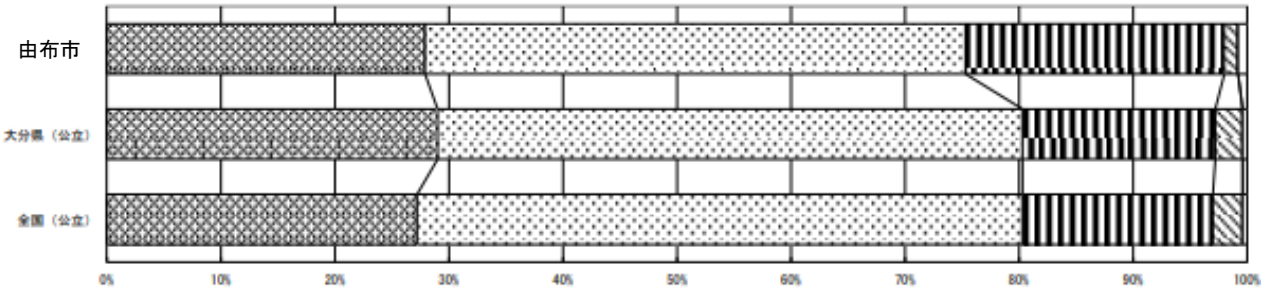
Q13.　1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを 工夫して発表していましたか。

1.発表していた　2.どちらかといえば、発表していた　3.どちらかといえば、発表していなかった　4.発表していなかった
5.考えを発表する機会はなかった



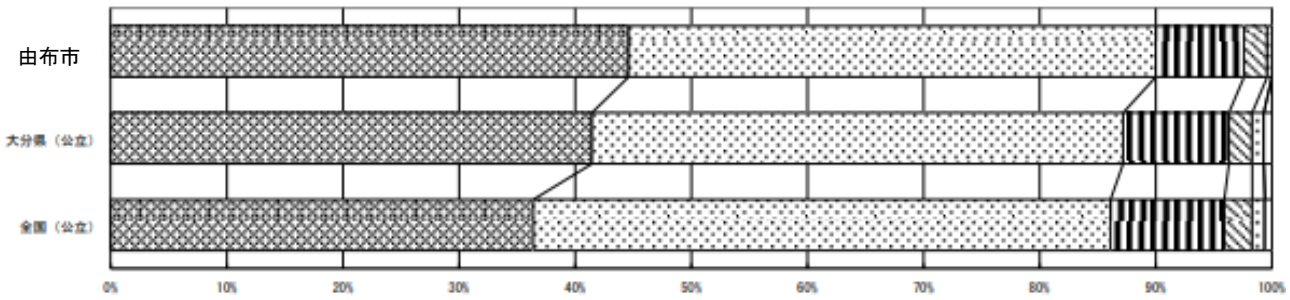
Q14.　1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

1.当てはまる　2.どちらかといえば、当てはまる　3.どちらかといえば、当てはまらない
4.当てはまらない



Q15.　学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

1.当てはまる　2.どちらかといえば、当てはまる　3.どちらかといえば、当てはまらない
4.当てはまらない　5.学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない



＊「１、２年生のときに受けた授業でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか」では、全国や県と比べて、「ほぼ毎日」「週３回以上」の割合が少ない。一方、学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」の４項目ともに、生徒はＩＣＴ機器の利用における効果を感じていることがうかがえる。これまで以上に、ＩＣＴ機器の活用の工夫をしていく必要があるといえる。

「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」は全国や県より高く、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」は全国や県と同程度である。しかし、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」については、全国や県より低い。この力をつけていくためのＩＣＴ機器の活用の工夫を進めていくことにより、自分の考えを表現する活動における、資料や文章作りの工夫にむけた取り組みを設定していきたい。

（２）全国学力・学習状況調査の学校質問紙からわかる状況

各校より出された回答の中で、成果及び課題と思われる点に絞って分析しました。

①成果とみられる項目

＜小・中共通＞

○授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。（小 100％、中 100%）

〇総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。（小 100%、中 100%）

○学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか。（小 100%、中 100%）

②課題として考えられる項目

＜小学校＞

△児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。（小 30.0%、県 56.5%）

＜中学校＞

△生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。（中 33.3%、県 47.9%）

③結果を踏まえて

＜小・中共通＞

〇今後も、「総合的な学習の時間」において各教科で身に付けた力を生かしていく視点を持ち、由布学（幼・小・中・高）に取り組みたい。

〇主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、今後も児童生徒が互いの考えを深めたり、広めたりすることができる課題解決的な展開の授業を仕組みたい。

〇各教科において、タブレットの効果的な活用についての研修を継続し、ＩＣＴ機器を活用した授業を、各教科や総合的な学習の時間で積み上げていきたい。

3　今後の「学力向上」に向けて

（１）由布市の取組の重点に加え、定期的な補充学習を行うこと

小・中学校ともにこれまで補充学習等を中心とした取組を実施してきました。その取組の成果が全国学力・学習状況調査結果からもみてとれます。しかし、教科あるいは領域によっては、依然課題が残っている部分があることも確かです。

このことから、今後も定期の補充学習を継続実施するとともに、各校で実施した分析結果を基に、各教科における組織的な授業改善をさらに進めていきます。

（２）ＰＤＣＡサイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていきます。検証する際の一つの手段としては、１２月に実施する由布市独自調査も継続して活用し、2 学期以降の取組についての成果や課題を再確認していきたいと思います。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組をすすめてまい

ります。学年単位ではなく、学校全体で組織的、継続的に様々な取組を行っていきます。

（３）学校生活を充実させること。

学校生活を充実させるためには、学習面・生活面の両面を充実させる必要があります。今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた児童生徒の育成に一層取り組みます。

＊中学校では３校が共通して取り組む内容を下記のように設定し取り組んでいます。
また小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組んできました。

内容の骨子としては、

～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

① 新大分スタンダードに基づく授業改善

② 児童・生徒による授業評価の導入

③ 組織的な家庭学習の研究

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

④ ３中学校合同教科部会の実施

⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、推し進め学年間や学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。